

愛知県・名古屋市

名古屋海洋博物館

—潮風を感じながら港の役割を学ぶ—

松良精三 編集委員

一昨年に開港100周年を迎えた名古屋港は、6年連続で日本一の総取扱貨物量を誇るなど、「ものづくり中部」を支える国際貿易港である。この名古屋港の発祥地であるガーデンふ頭地区には、名古屋港水族館、南極観測船ふじ、商業施設が立地し、毎年約200万人もの市民や観光客が訪れる一大観光・交流スポットとして賑わっている。このなかで、海に浮かぶ白い帆船をイメージしてつくられたという、ひととき目を引く名古屋港ポートビルに、「名古屋海洋博物館」がある。

館内に入ると、昭和40年代の名古屋港建設時に使用された浚渫船のグラブバケット（実物大模型）が迫力ある姿で出迎えてくれる。湾奥に位置し遠浅だった名古屋港において、浚渫工事が最重要工事であったことから、名古屋港建設のシンボルとして博物館入口正面に展示しているという。港を築いた技術のコーナーでは、やはり浚渫工事に焦点を当てた展示がなされており、世界最大のグラブ浚渫船の模型や浚渫工法のパネル・映像展示などによってわかりやすく説明されている。案内していただいた森藤館長は、「名古屋港建設の歴史は、まさに浚渫技術の歴史です。有視界作業ができない海底での浚渫工事には高い技術力が求められ、今や日本の浚渫技術は世界でトップクラスです」と話された。

さらに進むとコンテナ貨物についてのコーナーがある。現在の海上貨物輸送の主流となっているコンテナ貨物について、コンテナ船などの大型

模型や世界のコンテナ航路のパネルが展示され、コンテナ船の巨大さや世界を結ぶコンテナ輸送網について学ぶことができる。また、実物大の20ftコンテナの中に自動車・産業機械部品、食料品などの代表的な貨物が展示されており、われわれの日常生活や企業活動を支えるさまざまな物資が、コンテナにより輸送されていることを実感できる。さらに、コンテナを積み降ろしするガントリークレーンの一部が再現され、地上40mにある操作室から見下ろす映像を見ながら、高所でのクレーン操作を体感することもできる。

本博物館は普段接することができない港の役割などについて幅広く学習できるため、多くの小中学生が社会科学習の一環として来館しているようだ。なお、本博物館をはじめ、全国の港に関する博物館が集まった「みなとの博物館ネットワーク・フォーラム」が設立されている（<http://www.port-museum.jp/>）。こちらもぜひ一瞥になってはいかがだろうか。

Access アクセス

所在地 〒455-0033 名古屋市港区港町1-9
電話 052-652-1111
交通 地下鉄名港線「名古屋港」駅下車徒歩5分
開館 9:30～17:00(休館:月曜日)
入場料 一般・高校生:300円、小中学生:200円
URL <http://www.nagoyaqua.jp/muse/index.html>





世界最大のグラブ浚渫船の模型



名古屋港大パノラマ模型



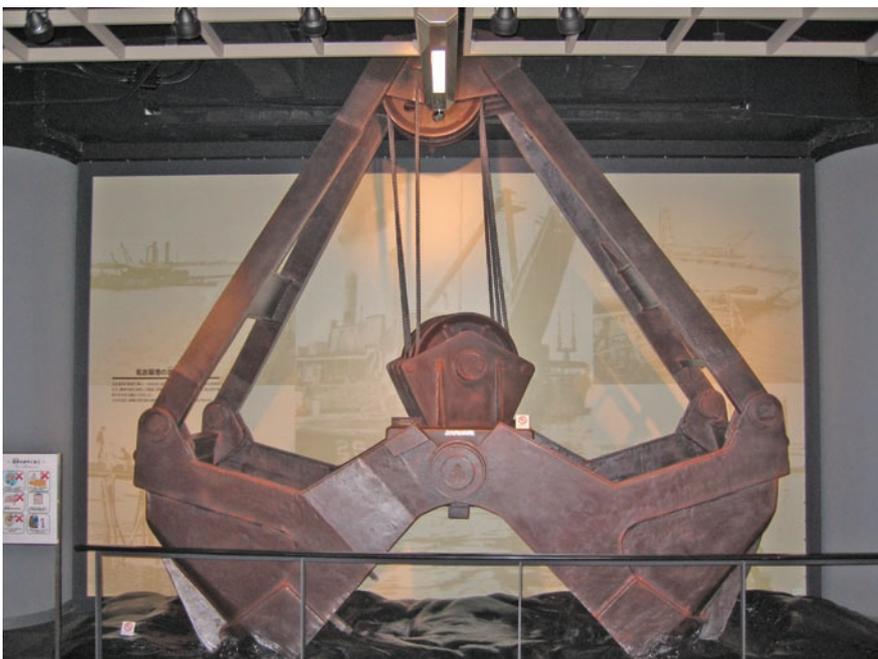
博物館が入っている名古屋港ポートビル



コンテナ貨物の内容



コンテナ船の模型とコンテナ航路



入口にあるグラブバケット実物大模型



ガントリークレーン操作の体感ブース



鳥羽市の神島(三島由紀夫著『潮騒』の舞台)で使用されていた船舶確認用双眼鏡